

【海外情報】

欧州における次期フレームワークプログラム Horizon Europe に関する欧州委員会案の公表

【概要】

●6月7日、2021年～2027年の7年間を対象とするフレームワークプログラム（Horizon Europe）の欧州委員会案が示された。Horizon Europe の予算総額は976億ユーロ（現行の Horizon 2020 と比べると2割強の増額）である。Horizon Europe と Euratom の予算を合わせた当該7年間におけるEUの研究イノベーションの全体予算は1,000億ユーロが見込まれている。

●Horizon Europe の基本構造は、3本柱（第一の柱は「オープンサイエンス」、第二の柱は「グローバルチャレンジ・産業競争力」、第三の柱は「オープンイノベーション」と、ERA（欧州研究圏）の強化から成る。

●アソシエート（準加盟国）としての参加条件が見直された。地理的条件等が緩和される一方で、これまでGDPに応じて拠出額が算出されてきたが今後は当該国の受益とのバランスが求められる。

【詳細】

1. 欧州委員会による Horizon Europe 案の発表

6月7日、欧州時間正午（東京時間19時）、2021年～2027年の7年間を対象とする Horizon Europe に関する欧州委員会案が公表された。Horizon Europe の予算総額は976億ユーロとされ、その基本構造は、第一の柱「オープンサイエンス」、第二の柱「グローバルチャレンジ・産業競争力」、第三の柱「オープンイノベーション」と、ERA（欧州研究圏）の強化から成ることが示された。

同日発表された欧州委員会の公式プレスリリースによれば、976億ユーロの Horizon Europe（InvestEU 基金（ローンや保証金による支援）を通じての35億ユーロを含む）および24億ユーロの Euratom（欧州原子力共同体）研究・トレーニングプログラムを合わせた1,000億ユーロが、EUにおける当該7年間の研究・イノベーション予算として欧州委員会が提案する金額であるとしている。

上記の内容を取りまとめた予算案の概要は以下の表のとおり。

■ Horizon Europe 予算						単位：ユーロ
第一の柱（フロンティア研究の支援） 「オープンサイエンス」	258億	第二の柱（社会的課題の解決） 「グローバルチャレンジ・産業競争力」	527億	第三の柱（市場創出の支援） 「オープンイノベーション」	135億	
ERC（欧州研究会議）	166億	社会的な課題 ・保健 ・安全な社会 ・デジタル化、産業化 ・環境、エネルギー、輸送 ・食料、資源	505億	EIC（欧州イノベーション会議）	100億	
マリーキュリーアクション	68億			欧州イノベーション・エコシステム	5億	
欧州研究インフラ	24億			JRC（共同研究センター）	22億	EIT（欧州イノベーション・技術機構）
ERA（欧州研究圏）						21億
InvestEU 基金						35億
						合計 976億
■ 研究イノベーション総予算						単位：ユーロ
Horizon Europe						976億
Euratom 研究・トレーニングプログラム						24億
						総合計 1,000億

予算案における注目点は以下のとおり。

- ・ 全体として 2 割強の増額。
- ・ EU 全体予算のうち CAP（共通農業政策）の予算を 5%減らす代わりに、Horizon Europe の第二の柱で農業向けに 100 億ユーロ（第二の柱の予算 527 億ユーロの内数）を計上することで政治合意。
- ・ 具体的な研究プログラムやプロジェクトの内容、その資金配分の方向性については未定。
- ・ 現行の Horizon 2020 では第一の柱「卓越した科学」において支援されている FET（未来新興技術）フラッグシッププログラムは、Horizon Europe においてミッション志向が強調され、社会的課題の解決を目指す第二の柱に組み込まれることとなる。

予算以外の点について、同案のポイントは以下のとおり。

- ・ SDGs とグローバルチャレンジ
Horizon Europe の全体目標に、研究イノベーションへの投資を科学的・経済的・社会的インパクトにつなげること、SDGs を含むグローバルチャレンジへの取組に貢献することなどが掲げられている。グローバルチャレンジにおいて設定される予定の具体的なミッションプロジェクトの数や内容を提示するまでには至っていない。ミッションの設計と実施を担うミッション委員会等の設置を示すにとどまった。
- ・ Brexit の影響とアソシエートとしての参加条件
Brexit については言及なし。アソシエート（準加盟国）として Horizon Europe に参加できる条件は緩和されたものの、従来は GDP に応じて貢献を求められた拠出金は受託金を考慮して計算されることとなった。
- ・ 新設のスキーム
EIC（欧州イノベーション会議）については EIC pilot で実施されている現行の取組を踏まえ、今後の EIC の全体戦略など欧州委員会に助言を行う機関として EIC Board の新設を明らかにした。

2. 欧州委員会案に対するモエダス委員の発言

モエダス研究・科学・イノベーション担当欧州委員は同日行われた記者会見において、グローバルなサイエンスにおいて EU のリーダーシップを強化するため ERC（欧州研究会議）の予算を増やし、EU の研究にとって新しい野心的なミッションを設定することで市民を関与させたいとの意向を表明。また欧州において革新的なイノベーションを生むため EIC の新設に予算を配分する点を強調した。

3. 今次提案内容を踏まえた今後の流れ

今回公表された Horizon Europe に関する欧州委員会案はまもなく欧州理事会および欧州議会に提出され、その内容をめぐって審議が実施される。また同時に、欧州委員会を中心に、同案の具体的内容、資金配分等に関する実務的検討が実施されることになる。

現時点での予測では、EU の全体予算の最終決定は 2019 年末までになされ、恐らく Horizon Europe の最終案の確定と同時に決定されるだろうと言われている。欧州委員会としては今回の公表に先立ち、5 月 2 日に 2021 年～2027 年の 7 年を対象とする EU 予算（多年次財政枠組（Multiannual Financial Framework））案を発表しているが、その中で来年（2019 年）5 月に予定されている欧州議会選挙以前に大枠の合意には達しておきたいとの明確な意向を示している。

（了）